

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題

生涯にわたり仲間とともに主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方

～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

#### 2 主題設定の理由

現在、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い子どもたちの生活環境も変化し続けている。テレビ、携帯型ゲーム、カードゲーム等、現代の子どもたちは身体を動かさなくても楽しみを得るための手段をたくさんもっている。また、生活が便利になることで身体を動かさなくてもいい状況も増えてきている。さらに子どもたちの運動不足の直接的な原因として、安心して遊ぶことのできる「時間・空間・仲間」の減少も深刻な問題として挙げられる。子どもたちの中にはスポーツ少年団に入って運動をしている子どももいるが、運動をたくさんする子どもとそうでない子どもの二極化や、運動をしていても一部の運動技能の向上に限られてしまう状況も見られる。このように様々な問題を抱えながら現在の子どもの体力は低下しており、体育科学習において運動に親しむ資質や能力の基礎を育てていくことが重要な課題である。また、習得した知識や技能を活用して課題を解決したり、学習したことを相手に分かりやすく伝えたりする力も不十分であると考え、本主題を設定した。

#### 3 研究の目標

児童の運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるために、学習過程や評価活動の工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した体育科学習指導の在り方を究明する。

#### 4 研究の仮説

学習過程や評価活動の工夫をしながら、各領域において主体的・対話的な学びを意識した学習活動を展開することで、児童が自ら進んで運動の行い方や練習の仕方を学習し、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるであろう。

#### 5 研究の内容

市内各小学校において学習過程や評価活動を工夫しながら、主体的・対話的な学びを意識した学習活動の実践を行う。

#### 6 研究の実際

(1)運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる学習過程の工夫

学習過程の工夫においては、単元の導入において学習計画を立て、児童にゴールイメージを持たせる工夫が挙げられた。また、個の運動能力に応じた練習ができるようにするために、すべての児童が意欲



【児童の実態に応じた場の工夫の例】

的に活動できる場の工夫も挙げられた。

【各学校での実践例】

- |               |            |
|---------------|------------|
| ○ 場の設定の工夫     | ○ 学習カードの活用 |
| ○ ICTの活用      | ○ 資料の掲示・活用 |
| ○ 単元の見通しを持たせる |            |

(2)指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫

指導と評価の一体化を推進する評価活動の工夫については、児童相互による教え合いを取り入れた実践が多く挙げられた。また、学習カードを活用し、児童の意欲を高める実践も多く行われていた。これらの工夫により、児童が意欲的・対話的に学習することができたと考えられる。

【各学校での実践例】

- |                |          |
|----------------|----------|
| ○ 児童相互による教え合い  | ○ 記録の可視化 |
| ○ 学習カードの活用     | ○ ICTの活用 |
| ○ 相互評価するための手立て |          |

(3)体力の向上を図るための体育科学習を含めた教育活動の在り方

体力の向上を図るために、準備運動で主運動につながる運動を取り入れたり、持久走や体幹トレーニングといった負荷のかかる運動を行ったりしていた。また、体力テストの結果から課題となっている項目について、学級で取り組める活動を行ったり、家庭への呼びかけによって学校外でも体力を向上させることができるような工夫が行われたりしていた。

【各学校での実践例】

- |                      |            |
|----------------------|------------|
| ○ 負荷の大きい主運動につながる準備運動 |            |
| ○ 学級で取り組める運動         | ○ 家庭への呼びかけ |



【動きについてアドバイスをする様子】



【体幹トレーニングの様子】

## 7 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 各学校の実践によって、学習過程や評価活動を工夫しながら、主体的・対話的な学びを意識した学習活動を展開することで、単元の目標を達成できるとともに、児童一人ひとりの意欲的な活動につながることを確認できた。

### (2) 課題

- 今後は、今年度の実践を基にさらに深く主体的・対話的な実践について整理していく必要がある。また、小林市全体で共通実践できる運動について検討する必要がある。